

第2回地域活性化部会 主な意見

《部会の進め方（地域まるごとホテルプロジェクト）について》

（地域にある宿泊施設と商店が連携して地域全体をホテルと見立てる「地域まるごとホテルプロジェクト」をきっかけとした地域の活性化について）

- ・「地域まるごとホテル」の検討範囲は、どれぐらいの広さか

⇒基本は富秋中学校区内。商店が集積する団地内店舗が関わることを期待した提案。宿泊施設の利用者等が歩いて回れるイメージでの取組み（事務局）

- ・実際に外国人が地域に滞留する時間はどれくらいあるのか

⇒関空から大阪、京都、奈良などのツアー客が、行き帰りの中継拠点として利用することが多いようだ。夜の便で空港に到着した場合や、飛行機の出発までに時間が空いた際に地域に足を運ぶ方がいるとき（事務局）

- ・地域を歩く外国人が増え、お店にくる外国人もいるが、コミュニケーションが取れる体制が整っていないので、現状はお客を逃がしてしまっている

- ・滞在時間が短いとせっかく連携して取り組んでも効果がないのでは。

⇒地域には魅力的なお店が多くあるが、日本人観光客にも知られていない現状があると思う。例えば、この取組みで周遊マップを作れば、だんじりや盆踊りを見に来る日本人観光客にも来てもらうきっかけになるのでは

- ・外国人が何を楽しみに、興味を持って日本に来るのかを知りたい

- ・佐竹ガラスでは体験会の実施や、HP づくりの工夫（多言語表示、空港から佐竹ガラスまでのアクセスを紹介）などで、観光客に来てもらえるような工夫を検討中

- ・周遊マップを作っても、お店で外国人に対応できる体制が整わなければ意味がない

- ・池上曽根史跡公園にも遠方から人が来ているが、帰りに駅の反対側である幸校区の飲食店等へ寄ってもらえるようになれば

（まとめ）

「地域まるごとホテルプロジェクト」をきっかけとした地域の活性化を目指すことは概ね賛成。次回部会で、宿泊施設の方も交えて、プロジェクトをすることなどについて話し合い。

（プロジェクト化できそうな話になれば、部会発のプロジェクト委員会立ち上げを視野）

《その他の課題について》

■団地内店舗の今後について

- ・市営住宅の建替えに伴い、将来的に商店をある程度まとめて配置し商店街をつくれたら
- ・現行ルールでは当初の業種を変更できず、新たな商売を始められにくいのが現状。行政として、新しいことをやる気のある人をサポートする考え方はできないか

⇒業種変更を可能とするルールについては、建築住宅課内で早い段階で前向きな検討を行いたい（市）

■公共空間の美化、今後の維持管理について

- ・村長の銅像、極楽橋などの歴史資源の解説看板の劣化等、何かの機会に綺麗にしたい
- ・団地内の雑草等公共空間の維持管理が課題。基本入居者中心だが、高齢者が増えて機能せず、シルバー人材等に委託する費用もあまりない

⇒改めて関係者を呼び、今の状況共有と、今後の方向性を話し合うべき